

課題NO.5

「シャインマスカット」の産地形成に向けた 生産・販売力向上

活動期間：令和3年度～令和4年度

対象者：JA新みやぎあさひなぶどう部会 中核的農家5人（同部会員20人）

チーム員：宇田川久美子、守屋明良、山田有子



1 課題の背景・ねらい

〈背景〉

■JA新みやぎあさひなぶどう部会について

- ・平成28年設立、部会員25名、ぶどう栽培面積は約1ha。
- ・部会員のほとんどが「シャインマスカット」を導入しているが、試作的な生産が多い。

■中核的農家5人について

- ・概ね樹形が完成。新たな増収・省力技術を導入することで生産量向上が見込める。
- ・出荷販売はJAを通じた産直や個別販売が中心。樹齢の経過や面積拡大による生産量増加を見据え、実需者ニーズを捉えた販売戦略の構築と戦略に沿った栽培管理技術の習得が必要。

〈ねらい〉

- ・増収・省力技術を習得し、生産量が増加する。
- ・販売戦略に沿った栽培管理が行われ、販売量が増加する。

【定性的目標】

- ・増収・省力技術を理解する。
- ・販売戦略が検討され、新たな出荷形態による試験販売を行う。

【定量的目標】

「シャインマスカット」販売量増加率：

〈R2〉660kg → 〈R3〉693kg（5%増） → 〈R4〉726kg（10%増）

2 活動内容

(1) 生産技術の高度化・省力化支援



●増収技術(光反射シート)の展示実証



●省力技術(花穂整形器)の導入支援



●小房ぶどう栽培方法検討



テキライグシ

●粒ぶどう栽培方法検討



●栽培講習会の開催 (5、7、12月)

●土壌診断結果に基づいた施肥指導

令和3年度シャインマスカット栽培層に基づくチェックシート

No	チェック項目	作業時期(生育状況等)	内容
1	芽かき	展葉5枚の頃	強く伸びた芽や弱い芽をかき、1芽座に2新梢残す。
2	(フルメット液剤)の花房散布	展葉6枚から8枚の頃	2ppmを花房に散布する。※定植5年目位までの樹とする。
3	新梢誘引	展葉9枚の頃	主枝と垂角に誘引。主枝片側1mに5~6本とする。
4	光反射シート敷設	開花前	樹形が完成した樹を対象に、主枝下地面に光反射シートを敷く。
5	病害防除	開花前	スイッチ顆粒水和剤2000倍液を散布する。
6	新梢の摘心	開花前~開花始め	葉数が10枚程度になるように新梢の先端を摘心する。弱い新梢は3枚、房先は1枚残して摘心する。葉重させない強い新梢は摘心する。摘心は満開50日後まで随時実施する。
7	副梢の摘心	副梢発生後随時	摘心する。摘心は満開50日後まで随時実施する。
8	アグレット液剤処理	満開予定日14日前~開花始め	1000倍液を花房に散布する。
9	開花始め		
10	花穂整形	1樹で1花穂が開花始めてから	房先4、5cmを残す。主枝1mあたり12葉房程度とする。
11	満開日		
12	ジベレリン処理(1回目)	満開から満開3日後まで	ジベレリン25ppm+フルメット2~5ppmで花房を濃く散布する。
13	軸長の調整	第1回ジベレリン処理5日後	軸長を6cmに調整する。
14	病害虫防除	落花直後	ファンタジスタ顆粒水和剤3000倍+スカウトフロアブル

●栽培管理チェックシートの作成と活用指導

●振り返り検討会の開催 (2月予定)



●巡回指導

●栽培暦の作成支援 (3月予定)

2 活動内容

(2) 販売戦略検討支援



●生産者への販売状況調査



●JAとの販売状況確認、意見交換



●粒ぶどう試験販売支援



JA新みやぎ元気くん市場仙台南店

●販売会の開催（10月）

●粒ぶどう試験販売

●消費者へのニーズ調査

●実需者へのニーズ調査

（販売店：JA新みやぎ一元集荷場経由・全農みやぎ経由の産直店舗）

●全農みやぎとの情報交換

●販売方法検討支援（2月予定）

3 活動成果

(1) 生産技術の高度化・省力化支援

<増収・省力化技術の導入支援>

成果

○増収技術（光反射シートの導入）

- ・収量は31%増加した。（令和2年）1,427kg/10a→（令和3年）1,875 kg /10a
- ・房重（40粒／房）と果粒肥大は8%増加した。（令和2年）650g →（令和3年）700g
- ・糖度は18度以上、食味良好
- ・2名の生産者は、次作で増収技術の導入予定

○省力技術（花穂整形器の利用）

- ・3名の生産者は、省力技術の導入により作業の効率化につながった
 - 増収・省力化技術について理解された
 - 栽培管理チェックシート・部会栽培暦に反映し、理解度向上、定着を図っていく

課題

- ・花穂整形器は、穂軸に傷がつく、慣れるまで大変などの問題があった
 - 適切な使用方法の習得



増収技術実証ほの果実

3 活動成果

(1) 生産技術の高度化・省力化支援

<基本的な管理技術の習得支援>

成果

- ・適切な栽培管理が行われた
- ・土壌診断結果に基づいた土づくり、施肥が行われた
- ・生育は順調、目立った病害虫被害なし。食味良好
→基本的な栽培技術を習得し、技術力が向上した

課題

- ・梅雨明けの急激な天候回復により日焼け果、縮果症が発生
- ・無核化处理のタイミングにより、一部の果房に乱れが発生
→高温・乾燥対策の理解と習得
→適期処理、均一な生育管理技術の習得



日焼けの発生した果房

<ニーズに対応した栽培技術の検討>

成果

- ・小房（400～500g）ぶどうの栽培方法を明らかにした
- ・粒ぶどうの摘粒にかかる作業時間は、房と比較して44%削減された

課題

ニーズに応じて

- ・小房ぶどうは各園地における生育特性の把握と栽培方法の習得が必要
- ・粒ぶどうの栽培方法確立のためには、着粒数・無核化处理・植調剤の使用方法の再検討が必要

3 活動成果

(2) 販売戦略検討支援

<ニーズに基づいた試験販売、消費者へのアンケート調査実施結果>

【JA新みやぎ元気くん市場仙台南店】

- ・ 1,000円程度の房（500g程度）、粒パック（100g・150g・200g）を販売
- ・ 特に房が人気。粒売りは200gパックが選ばれる傾向。粒サイズは大きいもの。値頃感重視の傾向

<実需者ニーズ調査結果>

【JA新みやぎあさひな一元集荷場経由の産直2店舗（イオンモール富谷店、ヤマザワ杜のまち店）】

- ・ 1,000円程度の房、粒パック、宮城県産

【全農みやぎ経由の産直2店舗（サンマリ、スーパービック）】

- ・ 600g以上の房、糖度18度以上、品質重視の傾向
- ・ 全農への出荷量が増加：（令和2年）46.2kg/1人→（令和3年）161kg/2人

成果

- ・ 小房が有利販売につながると考えられた
- ・ 全農取扱いの販売先で、お客さんに高評価。令和4年度、取扱量増加見込み

課題

- ・ 販売先によりニーズは異なる。各店舗のニーズの把握、生産技術の習得、出荷体制の整備が必要
- ・ 他産地との競合が想定される。高品質果実の安定生産がカギ。産地PRが必要

定性的目標：増収・省力技術について理解された
販売戦略が検討され、新たな出荷形態による試験販売が行われた

定量的目標：「シャインマスカット」販売量： 45%増加（957kg）/目標5%増加（693kg）

4 令和4年度の活動について

(1) 生産技術の高度化・省力化支援

- ・ 増収技術の展示実証と技術の定着支援
- ・ 効果的な花穂整形器使用方法の習得支援
- ・ 梅雨明け後の高温乾燥対策の理解、習得支援
- ・ 栽培講習会、振り返り検討会の開催支援
- ・ 栽培管理チェックシートと部会栽培暦の改定支援
- ・ ニーズに応じた栽培技術の習得支援
- ・ 高品質果実の安定生産に向けた技術指導

(2) 販売戦略検討支援

- ・ 実需者ニーズ調査の継続支援、出荷規格作成支援
- ・ 産地PR支援（販売会の開催、部会PR資料の作成）
- ・ 出荷反省会の開催支援
- ・ ニーズに対応した販売方法の整理と販売戦略の検討